

## ■藤原地区復興まちづくり計画（素案イメージ）作成にあたっての情報共有

第3回検討会においては、これまでに検討されてきた意見を「地区復興まちづくり計画（素案イメージ）」として整理しています。

ただし、関係機関との協議などによって、再度検討すべき事項などを以下に整理しています。

### 1. 復興まちづくりを検討する前提となる津波シミュレーションの条件

これまでの検討会で津波シミュレーションの情報を発信してきましたが、県から復興まちづくりを検討する前提となる津波シミュレーションの条件が示されました。

#### ●津波シミュレーションの条件

- ・ 県が決定した防潮堤が整備されている
- ・ 東日本大震災が発生した当時の潮位、および津波高（満潮時の潮位）
- ・ 東日本大震災による地盤が沈下した状態での地盤高とし、更なる地盤沈下は考慮しない。（更なる地盤沈下も考慮）

※（ ）が前回配布資料の条件

### 2. 防潮堤脇の土地利用について

防潮堤脇の土地については、今回の津波で被害が大きく、今後も危険性が高いのではないかとの考えから、公園や道路用地として活用することが提案されましたが、

次の理由より素案イメージから割愛しました。

- ・ 県の決定した防潮堤の高さが確保された場合、津波シミュレーション結果より、浸水深がそれほど高くない結果となったため、特に危険な地域にはなりません。

ただし、今後まちづくりを進めていくうえで、公園や道路などを整備するための用地として活用する可能性があります。

●復興まちづくりの前提となる津波シミュレーション

